

ふ き た さ と
吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒564-0062大阪府吹田市垂水町3丁目-8-28, 705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子
会長/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 振込先/00980-3-28845
ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7Esskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸

5月17日(土)に
第4回総会を開催します

市民会館 大集会室

受付開始 12時30分

開会 13時00分(終了16時頃)

欠席予定の正会員は同封の委任状の提出をお願いします

昨年に好評だったオークションもおこないます……7頁、11頁

今後の予定

春日で七草観察会	5月18日(日)	……	6頁
あルック吹田散策 関大千里山コース	6月7日(土)	……	7頁
会報誌29号の原稿締切り 投書・投稿歓迎	6月20日(金)	……	12頁
吹田環境教育フェア2003にブースで参加	6月21日(土)	……	7頁
千里緑地で七草観察会	7月20日(日)	……	6頁
会報誌30号を宅配	8月5日頃		
千里北公園で七草観察会	9月28日(土)		

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。日時の変更の場合がありますのでお問い合わせください。

ジャスコ南千里店エコクラブとすいた市民環境会議共催
「有馬富士公園見学ツアー」に参加して

まちなみ委員 浅田 都司男

兵庫県立有馬富士公園は県立都市公園では初めてとなる、県民が計画から運営まで携わる“参画と協働”のモデル公園です。

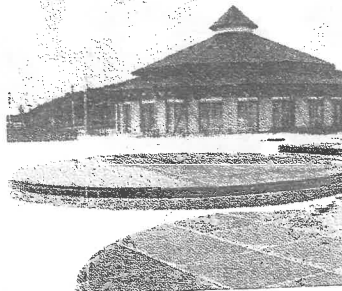
私がこの公園を訪れるのは初めて。子供連れの方も多く、総勢50名で賑やかにバスで出発。所在地はJR新三田駅から車で5分の所。近づくにつれ緑の山野が拡がり、かわいい有馬富士が前方に....。

公園は兵庫県・三田市・博物館などの4者の連帯により運営され、活用面で市民参加の方法をとると言う。総面積は416.3ha。この内2年前にオープンしたのは「出会いのゾーン」70haで、ここには2つのセンターの他「野鳥・水辺・草地・林などの生態園」や8万㎡の福島大池・里山・棚田などがあります。

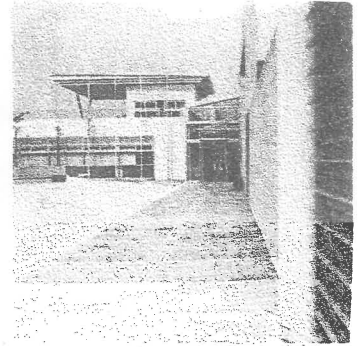
センターで説明を聞いてから、A・B2班に分かれて行動。Bはジャスコ店の親子グループが中心「春の野草ワークショップ」と館内見学。皆さん大変楽しく学習されたようです。Aは私たち環境会議会員が多く「公園の管理と運営」の説明や質疑応答。新しい意欲的な試みに伴う様々な苦労話も聞け有効でした。



自然科学センターの春の野草ワークショップ



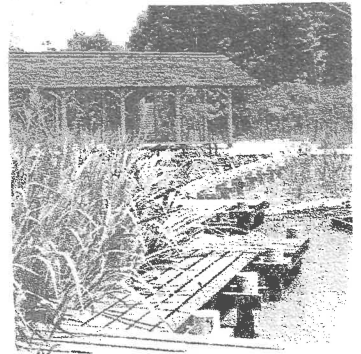
パークセンター管理事務所



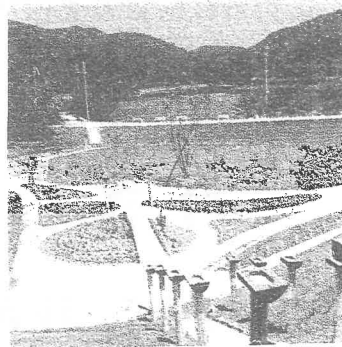
自然学習センター



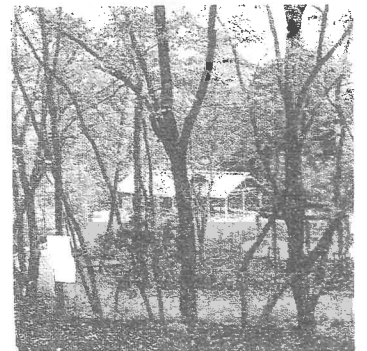
野鳥の広場・鳥の道



水辺の生態園



草地の生態園



林の生態園

昼食後、各自自由に①館内見学と②広場の散策。①では「室内外を通した水槽」や引出しを利用した「地中の虫」紹介装置などが印象的でした。②では緑の木々に蔽われた起伏の多い野鳥広場や大池を望む水辺の生態園などを歩きました。

機会があれば、有馬富士(標高348m)にも登ってみたい、また資料中の「夢のプログラム」なども興味深く拝見しました。

(4月9日 記)

万博記念公園・文化施設のあるまち

まちなみ委員 松岡要三

1970年に行なわれた大阪万国博覧会は、戦後の日本の発展、世界の民族交流の上で特筆すべきイベントだった。「人類の進歩と調和」のスローガンのもとに世界各国から史上最大の6400万人が集まりました。

その跡地は、緑の美しい森と芝生が広がり、人々が集う憩いの場となっています。129haの広大な敷地で、太陽の塔、日本庭園、自然文化園、エキスポランド、万博記念競技場などは良く知られるところです。また、優れた文化施設があります。より多くの人に見学していただいて、文化的な一面に触れるひと時を過ごしていただきたく紹介します。

(1) 国立民族学博物館

世界的にも高い評価を得ている大学共同利用機関で、諸民族の社会と文化の調査研究をおこない、その理解を深めるために、さまざまな形で情報を提供・展示する「研究博物館」です。

1935年からの設立活動が実り1974年創設し、1977年開館。初代館長梅棹忠夫先生。入館者は年間約15万人。民族学の研究や交流センターの研究者75名で、館外の研究者約700名を組織して運営しています。

約24万点の標本資料、7万点の映像・音響資料があり、地域別民族資料の展示が豊富で、ビデオテープレコーダなどコンピュータを活用した最先端の博物館でもあります。土曜日は小・中・高生は無料。専門家から若い世代にまで広く情報を提供しています。みんぱくゼミナールやみんぱく映画会も広く公開されています。

・財団法人千里文化財団と国立民族博物館友の会

みんぱく友の会の運営やシンポジウムの企画運営などで国立民族学博物館を支援するとともに、文化・芸術、国際問題の調査・研究、出版、学会・研究会の運営事業を推進するシンクタンクです。

大阪府・市などの公共事業体や他の財団などの受託事業もおこなっています。会長は梅棹忠夫氏。

みんぱく友の会は研究者や専門家だけでなく誰でも加入できます。会員は約1万人います。

(2) 国立国際美術館

現代美術を中心とした美術館です。「岡本太郎とEXPO'70」展、「古代エジプト」展には非常に多くの入館者がありました。2004年秋、大阪市中之

島へ移転し開館することが決定しています。

建物は文化ゾーンの中心に位置し、隣接の万国博ホール、日本民芸館とともに万博のために建設されたもので、文化ゾーンの景観を形成しています。太陽の塔などとともに、貴重な万博の文化遺産であります。是非、保存活用したいものです。

(3) 万国博ホール

博覧会ではサミー・デービス・ジュニアら世界のスターが出演した。近年稼働率が低迷しているが、この2月には若いアーティスト・後藤真希と松浦亜弥のミュージカルが14回公演されました。

(4) 日本民芸館

万博当時、大原総一郎クラレ社長らの呼びかけで、財界有志17社が「暮らしの美」をテーマに民芸品を集めて出展したテーマ館でした。現在、財団法人大阪日本民芸館が運営している。初代館長は柳宗悦などと共に民芸運動の先駆者で陶芸家の浜田庄司。浜田庄司の常設コーナーもあります。友の会があり、サークル活動もおこなっている。

(5) 大阪府立国際児童文学館

児童文学研究者鳥越信の蔵書が大阪府へ寄贈されたことを契機に1984年に開館。約67万点の明治時代から現代までの子どもの本やその研究書を所蔵。国際的な児童文学資料・情報・研究センターです。全国で約500人の会員を持つ大阪国際児童文学館を育てる会があります。

(6) 万国博記念館・生活誕生館 DILIPA

館内にはEXPOホールがあり、博覧会当時の資料約300点と合わせ、会期中の様子を映像で紹介しています。

(7) インターメディアム研究所・IMI大学院スクール

現代美術・映像・CG・デザイン・写真・音楽など多様なメディアのプロデューサーの養成企業で学生・院生・専門学校生・社会人などが学ぶダブルスクール。プロとして活躍する専門家が指導する。夜間コース、土日コースなどもある。異色の先端的スクールで約150名が学んでいます。

(8) NPO法人彩都メディア図書館

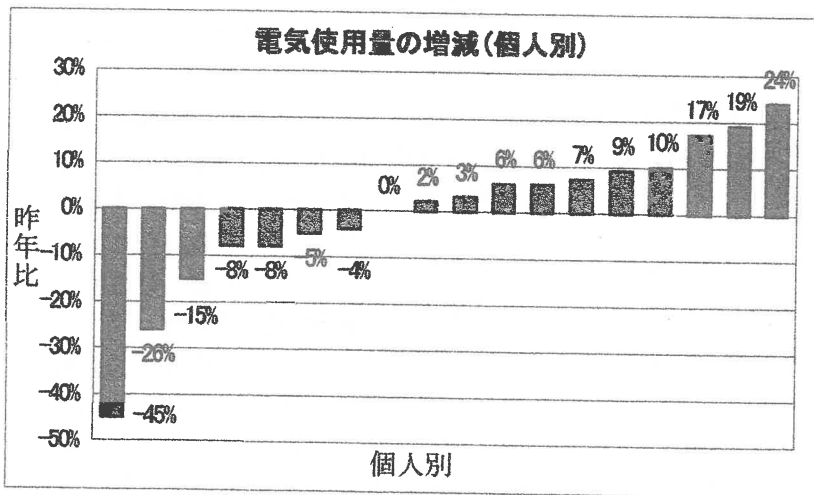
畑祥雄と中川繁夫の蔵書の寄託を受け「写真図書館」として出発。写真を中心としたメディア文化の専門図書館。米国のグラフ雑誌「LIFE」の創刊から廃刊までの全1800冊が開架で自由に見られる。賛助会員制度で財政をサポートしています。

最後に、地元市民としてその活動を理解し、もっと活用し、応援していこうではありませんか。

★家庭の環境マネジメント（環境家計簿）第1期の取り組み結果ができました！

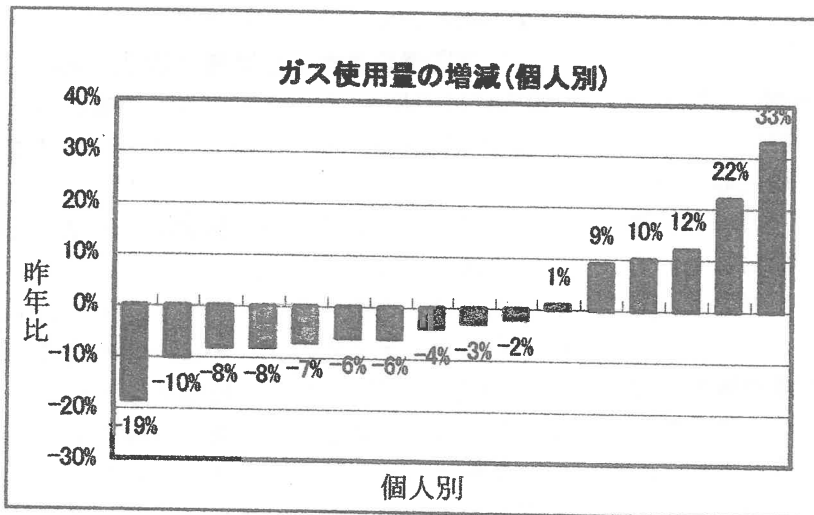
「家庭の環境マネジメント」活動は2年間の取り組みです。第1期取り組みは2001年11月から1年間でした。この度、この第1期の取り組み結果ができましたので概要をご紹介します。

取り組み参加者は24人、1年間の記録提出は19人でした。（取り組み項目が違うので、グラフの人数とは差があります。）データの分析は、生活環境委員会で行いました。



■電気 全体で昨年より0.1%減りました。

- ・1世帯あたりの平均使用量は456.4kwhで、前年度使用量より、0.1%減でした。
- ・24%増えた人がいる一方、45%も減らした人がいます。
- ・増えた人のなかには「家族数が増えたため使用していなかったクーラーを使った」「主婦がけがをした」「子ども2人の受験が重なった」「NPO立ち上げのため、夜更かしが多かった」などの要因のある人がありました。
- ・また、減った人は「家族が減った」という人もいましたが、「この取り組みをきっかけにマニュアルをきちんと実行した」「省エネ型冷蔵庫に買い替えた」「使用量が多かった家庭の省エネ努力」など取り組みの結果でもあるということがわかりました。
- ・増減が±5%未満の場合は、マニュアルを実行できなかった人、または以前からの省エネ家庭の多少の増減でした。



■ガス 全体で昨年より0.1%減りました。

- ・1世帯の平均家族数は3.4人でした。1世帯あたりの平均使用量は43.7㎡で、前年度使用量に比べ0.1減となりました。
- ・19%減らした人は、家族数が減ったためと考えられます。
- ・33%増の人は、冬の暖房を灯油からガスに切り替えたためと考えられます。
- ・家族数が増えた家庭や、家族がけがをした家庭もあり、炊事やシャワーなどの回数が格段に増えたということでした。
- ・もともと使用量が少ない家庭だと、多少の増加が大きな数値になって出てくる場合があります。
- ・中にはオール電化・太陽光発電を取り入れ、ガス使用をやめた人もいます。

■水

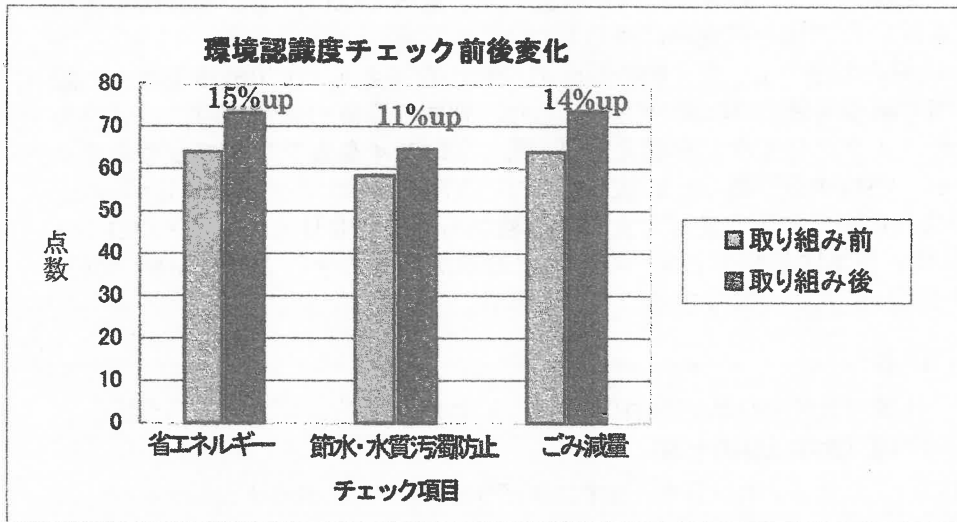
	(m ³)
1 2ヶ月合計	4045.5
1世帯平均	22.1

- ・取り組み者は16名でした。
- ・前年の使用量把握ができない人が多く(使用量のお知らせに記載がない場合が多い)現状把握になりました。
- ・1世帯あたりの月平均使用量は22.1 m³でした。

■ごみ

- ・ごみの取り組み参加者は13名でした。
- ・全員が重量を量って記録しています。
- ・前年の記録がないため、比較ができないので、現状把握になりました。
- ・13家庭の1人あたり月平均は5.7kgとなりました。
- ・ごみ削減に取り組んだ家庭の、生ごみ処理機の保有台数は13人中8人になりました。

■環境認識度



- ・取り組み前と後の両方ともチェックしている人のみの数字です。取り組んだ効果がしっかりと出ています。
- ・実際の記録の数字では大多数が減量できたとはいえませんが、認識度は確実に上がっています。

グループでの取り組みなので、減った人も増えた人もおり、平均すると成果が見えにくくなっています。でも、チェックリストの変化を見れば、環境行動の認識度は上がっています。ここから、環境適応型のライフスタイルへ少しずつ変化していくことが期待できると思われます。

また、より多くの方々に参加していただくために、取り組みやすい工夫(仕組み、ノートの記入方法など)をしていく必要も感じています。

全体の成果としてはまだ不十分なところもあるかと思いますが、ご感想をお寄せください。また、第2期へのご参加をお願いいたします。

★第2期がはじまっています！いまからでも遅くない ご参加ください！

第2期の取り組みが始まって、5ヶ月が経過しました。

(財)イオン環境財団の助成金(50万円)も再び受けることができました。

地球と未来への想像力と、あなたの創造力で、楽しく取り組んでください。

無理はしないが、無駄なくす!これが、この取り組みのキーワードです。

新しい参加者が7人増えて、第2期は28人でスタートしています。

★新規取り組みの方へ オリエンテーションを開催します！

オリエンテーションを下記に予定しています。新規取り組みの方は、下記のいずれかに必ずご参加ください。どうしてもご都合のつかない方は下記問い合わせ先へご一報ください。

5月7日(水) 13:30~ 市民会館5F NPO室

5月8日(木) 19:00~ 亥の子谷コミュニティセンター3F ボランティア室

持ち物:電気・ガスの「お知らせ」(領収書)・電卓・筆記用具

この時に取り組み用ノートをお渡しします。オリエンテーションは2時間程度です。

問い合わせ先:西川 整子 Tel&Fax 6 8 7 7 - 9 7 3 4 喜田久美子 Tel 6 3 3 0 - 0 3 0 5

春の七草試食会報告

平 軍二(生き物委員会)

生き物委員会では吹田市内の「春の七草・秋の七草調査」を計画し、昨年より予備調査を実施しているが、3月9日(日)ビオトープ委員会と共同で、春の七草採取とその試食会を開催した。雪のぱらつく寒い朝、「メダカの田んぼ」は遠目にはまだ冬のように見えたが、田んぼに入るとタネツケバナ・ナズナ・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウなど春の花がいろいろ咲いていた。

本会顧問である神戸大学助教授の武田義明さんに観察会講師となって頂き、春の七草で実物あまり知られていないほとけのざ(現代名コオニタビラコ(キク科))のことで、空き地に多いホトケノザ(シソ科)ではないからスタートし、せり・なずな・ごぎょう・はこべらと、七草の中で自然にある5種すべてを確認した。観察した野草44種の内、食べてはいけない毒草のタガラシ・キツネノボタンなどを除いた17種を試食用に採取した。

採取した野草は山三公民館をお借りし、生き物委員会の中村小夜子さん・小川畝津子さんの献立・指導により、全員参加で調理(男性群は調理実習)した。朝取り産直の新鮮野草に、メダカの田んぼで取れたもち米やスイタクワイなどを加えたが、悪名高いセイタカアワダチソウを含め、独特の風味を残しながらも、いわゆる「あく」が抜けていて、料理12種はすべて美味しかった。

私は子どもの頃を思い出したが、今日の食材で食べた経験があるのはセリ・スイバ・ツクシ・ヨモギだったので、終戦直後の生活困窮時でも食べなかった野草が利用できることを知り、今後、我が家の食材の広がり(+経済)に大きく寄与することとなった。

- ・参加者 19名
- ・観察した野草 44種(メダカの田んぼ近辺では珍しいヒメムズ(キンポウゲ科)を観察)
- ・試食した野草 17種(太字は春の七草)

アキノノゲシ、オオバコ、カラスノエンドウ、**コオニタビラコ**、スイバ、スギナ(+ツクシ)、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、**セリ**、タネツケバナ、**ナズナ**、ノビル、**ハコベ**、**ハハコグサ**、ヨメナ、ヨモギ、レンゲソウ、

- ・野草を利用したメニュー 12種

天ぷら、油炒め、唐揚げ、サラダ、菜めし、おつゆ、胡麻和え、卵とじ、オムレツ、パンケーキ、おはぎ、つみれ



← 試食開始を待つ料理群

今後の七草観察会

①春日 5月18日(日)

9:00 北急桃山台駅西口

②千里緑地 7月20日

(日) 9:00 阪急南千里駅

何れも雨天中止、会費

300円、12:00頃解散予定。

(問い合わせ 平

06-6877-0648)

今回も総会後にオークション

5月17日に開催する総会終了後に、オークション(競売)を予定しています。総会を盛り上げるため、オークションにも物品の無償提供と競りへの参加をお願いします。

オークション用物品の無償提供……自分の家での不用品(眠っているもの)であっても、
他の人に有効利用されると思われる物品の無償提供
オークションへの積極的参加……無償提供して頂いた物品は、全てオークションにかけま
す。残念ながら売れなかった場合は、希望者に無償で持ち帰ってもらいます。
オークションの売上金(収益)……すいた市民環境会議への寄付とさせていただきます。

当然ながら、競り勝った商品はお持ち帰り頂きます。
物品は当日受付まで持って来てください。

1日あそべます

すいた環境教育フェア2003

すいた市民環境会議も毎年、実行委員会に加わり、展示室でブースを出しています。

6月21日(土) 10時から4時まで

メイシアターで開催します。

環境かるた取りゲーム 吹田の水辺の生物 手作りおもちゃ

野鳥の鳴き声当てクイズ 省エネルギー実験

環境学習・環境保全活動の事例の発表 環境保全活動のパネル展示

環境に関する小中学校の絵画の展示

人形劇、演劇、演奏会、抽選会 など

あろック吹田の散策シリーズ

関大・千里山コース

6月7日(土) 9:30~正午頃 小雨決行。

阪急関大前駅南改札前に集合 解散は千里山駅

千里第2小学校の市内最古の木造校舎が取り壊されました。跡地に図書館が建設されます。

参加費 会員400円、非会員500円 連絡先 松岡 TEL & FAX 06-6384-8168

吹田歴史文化まちづくりセンター オープン記念行事

施設の計画に本会も団体として当初から参加してきました。設立後も運営の委員会に参加します。

行事は5月31日(土)~6月7日(日)の8日間おこなわれます。詳細は『市報すいた』5月1日号をご覧ください。

旧山田村コース [藤白台 田中光輝]

「あルック吹田」の散策会があるのを知ったのは偶然でした。吹田市報の開催案内が目にとまったのです。早速、旧知で歴史好きのKさんやOさんご夫妻を誘い、初めて参加しました。すぐ近くに住んでいながら新しい発見が沢山ありました。

阪急山田駅に午前9時30分に集合。岡村さんを始め、まちなみ委員の皆様方の案内で30名程の参加者がスタート。

最初は「三つ辻の道標」へ。ここから山田郷土史研究家の竹田先生に説明をして頂くことになりました。これまで何度も通っていながら見過ごしていた小さな道標ですが「小野原街道」と「山田街道」の分岐点の近くに建つ、旧街道のなごりの貴重な存在であることを知りました。

続いて、古くから大切に保存されてきたという13体の石仏群にお参りしたあと、「宗名寺」(そうみょうじ)「生業寺」(しょうごうじ)を経て山田の代表的古民家(庄屋)であったという「旧竹中邸馬入門」に到着。かつては馬に乗ったままで通れる格式ある大型の門として長屋門に組み込まれた貴重な建物だったそうですが、母屋はマンション建設のため取り壊され、かろうじて門だけが保存され、僅かに残る松の並木と共に往時の面影を伝えていました。



(紫雲寺本堂の中で)

そこから、寺伝では8世紀、行基により開創されたといわれる「紫雲寺」(しうんじ)を訪れました。本堂で、江戸時代後期に大阪で活躍した画家「森狙仙」(もりそせん)によって描かれたという野鳥や小動物の天井画を眺めながらお茶と地元老舗の和菓子を頂きました。

次に「紫雲寺」と同様の古刹で天台座主 慈覚大師による9世紀の創建と伝えられている「圓照寺」(えんしょうじ)に向かいました。古代・中世の仏像や絵画が多数伝わっており、毎年7月には公開もされるとのことでした。

寺の裏手に残る山桜の古木をながめた後「山田伊射奈岐神社」(やまだいざなぎじんじャ)に向かいました。これまでも何度かお参りしたことのある神社ですが、平安時代の延喜式(えんぎしき)に記載された由緒ある神社であり拝殿左側に神社を延喜式内社として認定する旨の社標石が残されている事、拝殿前の阿形・吽形の型をした狛犬の話、大鳥居の由来についての話など興味深い説明をして頂きました。

この後「南林寺」(なんりんじ)を経て、初夏には蛍も出るという静かで美しい竹林の道を通り、最後の目的地である「光山寺」(こうざんじ)に到着。次回の予定等の説明を受け、解散となりました。

楽しみながら地元の歴史を勉強させていただき、本当に有難うございました。



恒例 打ち揃っての記念撮影(山田伊射奈岐神社) ⇒

千里ニュータウンから山田へ移ってもう20年になるが、街や自然に無関心に過ごしてきた。

「あろっく吹田」散策会は、参加して3年になるが、吹田市のまちなみや自然を見て廻り、いつも新しい発見があり楽しみな会である。

今回は古い歴史のある吉志部コースである。JR岸辺駅集合。まず、東側地下道より、いま大きな問題となっている吹田操車場跡地へ出る。ただっ広い雑草と砂利の土地、降り出した小雨の中、何処からともなく聞こえてくる小鳥のさえずりに参加者一同耳をそばだてる、意外とのどか。

地下道を抜けると、いきなり大きな茅葺のお屋敷が現れる。吹田市都市景観賞特別賞を受賞した旧岸部東村のまちなみの入口である。

案内の岡村さんより岸部の歴史を聞く。岸部は6世紀ごろから吉志と呼ばれる一族が住んでいたことから「吉志部」と呼ばれていて、江戸時代に「岸部」に変わったとか。



吉志部神社の拝殿で説明を聞く

景観特別賞のまちなみを進むと大光寺の門前へ出る。両側の電柱が目障りである。大光寺の梵鐘は寛永時代に信長ゆかりの安土の寺より移されたとか。

路地を抜けると長屋門の立派な大きなお屋敷が現れる。大庄屋だった中西家である。初代は秀吉の家臣として滋賀県より移住したとか。お屋敷、お庭も立派とのこと。また、今日参加していた地元の年配の方が飛び入りで、「長屋門は長谷川一夫？の映画「忠臣蔵」の吉良邸討ち入りのロケが行われた」との説明がある。参加者一同改めて長屋門を眺めた。

また、中西邸前の小さな民家の植木の刈り込みも面白い。恐竜の形に刈り込まれているが、孫へのプレゼントとのこと。

ここから吉志部神社までは狭い道を幾度も曲がりながら進む。色々面白い話や発見がある。

和菓子店「一一堂（いっぴんどう）」。戦後間もなくの創業。昔ながらの地味な店構え。安価で美味との評判。散策会ではいつも地元の御菓子を戴く。これも楽しみの一つ。上品な味だった。

願成寺門前の旧家の塀の屋根の恵比須、大黒像、雨にぬれて黒く光っている。常光寺本堂の瓦の獣像、「吉志部惣道場常光寺」と刻まれた石碑、古い門、鐘楼、門前の小さな地蔵堂。歴史の説明を聞く。創建は奈良時代、廃寺、再建、焼失の歴史を繰り返して再建されたという。

元岸部村役場跡の岸一公民館界限、昔は市場があり賑わっていたそうだがその面影はない。

亀岡街道へ着く。一石五輪塔、小路道標、旅籠屋の面影を残す寿司店、吉志部神社参道の石碑、石灯籠、新しい立派な鳥居、柱には弥五衛門、四平衛などの古い名が刻まれる、参道のユーカリの大木。説明を受けながら、石碑や表示板の説明を読むと興味が尽きない。

ユーカリには「幹廻り312cm、樹高19m」との環境会議設置の看板がかかっている。岸部尋常小学校の卒業写真には必ず写っているとかな。

吉志部神社に着く。平成10年建立の鳥居の下に満開の紅梅と白梅が大粒の雨に打たれている。

奥田宮司さんの案内で、神社の拝殿に昇らせていただき、お祓いを受け拝礼する。また、宮司さんより、神社にまつわる歴史、重要文化財の全国でも珍しい七間社の本殿、祭神などのお話を聞く。また、「本殿の塗装が色あせてきたこと、彫り物が田舎の細工師による何とも素朴な出来栄え…」とのこと、とても興味深い。

神苑横に登り窯1基、7世紀初頭に須恵器を焼いた窯とか。近くに吉志部古墳の石碑も建っている。少し小ぶりになった雨の中、紫金山公園へ。七尾瓦窯跡の看板が新しい。

赤松林の下にコバノミツバツツジが群生している。細い幹が根元から株立ちになり、5~6mに伸びた木の繊細な枝先に固い芽がついている。常緑の広葉樹が茂り、日照が悪く衰退していたが、樹木を伐採し日照を改善したので、桜の咲く頃には開花し、花を楽しめるまで回復したとのこと。

市立博物館へ着く。ここで小休止。雨のため予定を変更、本日の散策会はここで終了となる。

崇神天皇の時代まで遡る岸部の古い歴史、道標の面白さ、里山の話など今日も発見多し。岡村さん、皆さんに感謝。楽しかった。

活動をいつも見守っています 株式会社 井上昇商店

井上昇商店がある吹田市内本町は、「吹田市の中心部」と言われる地域である。その周辺にあった田畑が住宅に変わっていくずっと以前から、代々の落ち着いた暮らしが営まれていたであろうたたくまいが感じられる。

事務所のドアを明けると「ひと」が働く気配が溢れていて、取り澄ました所のない暖かさに包まれる。

社長の井上義信氏は、半白の頭髪に櫛目がすっきり通り、作業用の服装なのになぜかスーツにネクタイという印象を受ける端正な紳士である。きさくに自分でコピーをとろうとしておられる様子に、ここがいい雰囲気のもと社長にあるのだなと思った。

井上昇商店のお仕事は？ との質問への“木製建具、アルミサッシ、ドアの販売で、今、防犯ガラスへの交換などもしています”の言葉に、地域の雰囲気にとぐわれない時代の趨勢を感じた。

すいた市民環境会議入会のきっかけは、

吹田商工会議所創立50周年事業の記念行事として開催された「環境に関するパネルディスカッション」なのだそうだ。当会議からパネラーとして参加した幹事（現理事）の発言から活動状況を知って、入会を決めたとのこと。

せっかく関心を持っていて下さるにもかかわらず、すいた市民環境会議の企画行事には“不況下の現況では精神的にも参加しようというゆとりがありません”との答えに、今の世の波の高さを思う。

我々の活動については、“真摯に取り組まれているのがよくわかります。しかも、経費をかけないような工夫をされていて感心しています”と仰ってくださいている。活動に参加出来なくても、つねに見守ってくださっていることが分かる。

不景気というトンネルを早くくぐり抜けて、井上昇商店の皆さんと一緒にピオトープ作りに汗を流す日が来ることになればいい、と、ふと考えた。

会報委員 岩溪 恭子

山田まちびらきに出店

4月6日（日）に阪急山田駅の東広場でまちびらきイベントが開催されました。

本会は、生き物委員会の手でメダカの田んぼの野草を天ぷらにして販売しました。天ぷらは好評で、延べ約100名が食べて、10時から2時まで昼食をとるヒマもなく立ちっぱなしの4時間でした。

価格は4種100円、お好みの4種とサツマイモかカボチャのおまけをつけました。その場で揚げるといふことで、会話もはずみ、たのしい時間でした。あつあつの天ぷらにさらにゲランドの塩（フ

野草の天ぷらに人気

ランスの自然塩）をかけるというぜいたくさ。おまけも塩も好評でした。

リピーターも多かったです。ちゅうちょする中学生にお試しして特価50円を設定しました。彼らもリピーターとして、2度目は100円払ってくれました。売り上げは7,050円でした。

商品：ヨメナ、レンゲソウ（花つき）、ユキノシタ、セリ、タンポポ、ノゲシ、ヨモギ、カラスノエンドウ、スイバ、ナズナ、ギシギシ、
（12頁へつづく）

特定非営利活動法人 すいた市民環境会議 会員名簿 (2003年4月1日現在)

○正 会 員 (1 4 8 人)

青木 夕ミコ	秋山 こずえ	浅田 都司男	熱田 克子	安封 久美子	阿部 誠行
天野 正子	有澤 壽子	池田 明義	池淵 佐知子	磯田 栄子	伊藤 勝子
伊藤 昌一	伊藤 みどり	岩井 みゆき	岩溪 恭子	上田 万吉	宇都宮 正則
梅原 千鶴	梅原 章一	卜部 弘信	尾浦 美久子	大江 尚子	大越 好子
大澤 浩子	大西 和子	岡田篤司	岡部 佐内	岡村 昇二	小川 敏津子
奥山 悦男	小田 忠文	小田 信子	海原 登美子	香川 万理子	角野 綾子
笠岡 英治	香月 利明	加藤 俊二	蒲田 克子	川口 雅之	喜田 久美子
木下 宏子	木下 嘉清	木村 雄次郎	草野 弘靖	熊野 三千代	黒田 悦三
小池 淳一	小出 永子	後藤 寿満子	小林 幹生	小室 巧	佐江木 了治
佐々木 良太	坂本 恵	桜井 あかね	佐藤 和子	塩川 哲雄	塩田 敏治
柴田 晃	清水 由紀子	須賀井 やすみ	菅原 節子	鈴木 和子	瀬口 澄子
瀬古 靖子	高桑 常子	高畠 耕一郎	滝川 厚子	田口 實	竹内 美由紀
武田 義明	田澤 修一	翼 京子	田面 郁次	田中 脩	田中 一子
谷口 英子	田畑 寛子	千代延 明憲	坪内 晃	出原 正道	寺尾 恵子
東平 良子	土志田 新八	永井 克治	中井 桂子	中尾 久美子	中尾 忍
中川 順子	長坂 孟重	中土 康雄	中松 美智子	中村 小夜子	中本 美智子
西尾 熱子	西川 整子	西川 たけお	西川 保	西川 哲成	西谷 玉枝
西村 邦子	橋口 健一	橋本 徹也	橋本 君江	長谷川 達海	長谷川 美津代
鳩間 伝一	土生 陽子	播磨 真津代	治村 嘉寿子	彦坂 利久	平 軍二
平山 節子	広村知幸	福永 美代子	伏木 章	藤村 修	古谷 啓伸
堀 節子	本地 綏子	前田 恭厚	前屋 輔 弘之	馬垣 安芳	真壁 映子
牧野 展元	間瀬 彩月	松岡 要三	松山 幸広	水川 晶子	南田 順子
宮川 治樹	宮本 好彦	三好 桂子	三輪 信哉	村住 和子	邑本 恵子
森本 彪	安原 美智子	山上 光枝	山田 國廣	山出 光文	山本 淑子
山本 富雄	由井 昭徳	由上 勇	吉村 哲彦		

○購 読 会 員 (1 1 5 人)

赤堀 栄子	秋山 芳恵	有田 亮一	生駒 敏子	石川 信行	石原 真弓
市川 貴美代	伊藤 隆子	稲波 誠	岩島 妙子	梅田 茂	榎原 貞子
太田 英子	大塚 光二	岡本 悦子	小儀 賀代	奥田 倫子	奥谷 正実
小田 定子	越智 清光	梶川 文代	梶山 佳代子	片山 むつみ	勝矢 久仁子
金子 誠一	川井 悠子	河面 堯	木田 祐子	北尾 賀永子	北方 隆
喜田 啓之	北村 英一	北村 正子	木原 治子	木村 澄夫	木村 裕
楠元 美智子	栗木 祐子	栗本 修滋	児玉 恵美子	後籐 治人	小松 孝子
小室 千恵子	古屋 美千代	佐伯 千賀子	阪上 靖子	坂本 喜久子	桜井 稀衣
佐々木 恵子	佐藤 百合子	芝 雄治	柴原 恵	春藤 真弥	新名 貞夫
菅原 潔	菅原 新	杉浦 隆子	杉林 百合子	鈴木 たつ江	鈴木 節子
鈴木 とみ子	鈴木 真世	瀬川 和子	瀬川 勝	瀬屋 好治	竹内 孝之
武坂 静雄	武田 ゆき子	田中 光輝	谷川 善彦	俵石 正雄	丹羽 ミネ子
寺西 由美子	土井 唯夫	長崎 尚子	中島 康博	仲 直樹	西木 勲
西谷 文和	西埜 弥生	西村 秀美	橋本 英樹	八田 佳子	濱口 和子
浜田 政夫	林 捷子	松垣 美佐枝	平田 賢一	平田 敏	平野 寿美子
藤原 博史	二上 正子	筆前 祐子	前田 敦史	松浦 登美枝	松浦 一志
松岡 幹郎	松田 遼	三崎 敬二	水井 賢治	宮崎 恵子	武藤 正治
村住 正孝	村住 正行	森岡 寛光	森 邦子	森田 幸子	山岸 貞造
山口 克也	山下 宗一	山田 千穂子	山根 孝	横山 正和	吉田 栄司
匿名 1人					

○法人正会員 (4 社)

小儀動物病院	(株)井上昇商店	(社)吹田市医師会	(株)近畿シビルコンサルタント
--------	----------	-----------	-----------------

正会員から購読会員へ
 購読会員から正会員へ
 移行を希望される方は
 書面で事務局に届けてください。

正会員 総会で議決権があります。
 購読会員 総会で議決権がありませんが、その他は正会員と同じ資格です。
 会費などは表紙の題字の下をご覧ください。

2002年度 2003年度 新入会員

2003年4月20日現在の会員数

正会員(個人148人・団体0・法人4社) 購読会員(115人) 賛助会員(0人)

2003年1月11日～2003年4月20日の新入会員はつぎの方々です。(敬称略)

正会員 瀬古靖子 三好桂子 瀬口澄子 東平良子 永井克治
大西和子 橋本君江 西村邦子 蒲田克子

購読会員 田中光輝 野口裕康

入会をありがとうございました

- ★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。
- ★ 2002年度と2003年度の会費未納の方に郵便局の振込用紙を同封しました。入金をお願いします。会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。郵便振込みの場合は、入金確認が若干遅れる場合があります。
- ★ 会費についてのお問合わせ、会員の種類変更などは
会計 喜田 TEL 06-6330-0305(夜間のみ)、FAX 06-6330-0376(終日受信) まで

ご寄付をいただいたの方々 2003年1月11日～2003年4月20日(敬称略)

ジャスコ南千里店・イエローシート(4900円) 松岡要三(1000円) 高畠耕一郎(10,000円)

最近の主な活動報告

1月25日	あलック吹田散策	旧山田村コース	参加者29名	……	8頁
3月1日	あलック吹田散策	吉志部コース	参加者21名	……	9頁
3月9日	春の七草を食べる会		参加者19名	……	6頁
3月29日	有馬富士へバスツアー	本会からの参加者	24名	……	2頁
4月5日	あलック吹田散策	千里丘コース	参加者19名		
4月6日	山田まちびらきに野草の天ぷらを出店		販売数100食	……	10頁

(山田まちびらき 10頁からつづく)

ハコベ、タネツケバナ、コオニタピラコ

人気商品：セリ、ユキノシタ、ノビル(野蒜)、ノゲシ

意外な人気：タンポポ、カラスノエンドウ、レンゲ
・・・これらは「エ～ッ?食べられる

のお～?」と人気でした。

揚げてびっくり：スイバは天ぷらにすると赤く美しくなることを発見して驚きました。

展示のみ：食べてはいけない野草としてキツネノボタンとタガラシ

(小田忠文・会長、喜田久美子・理事)

本号は5月10日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷(☎06-6387-2139)まで連絡をいただくようお願いします。前号28号は2月5日頃に配達しましたが、届いてない方も連絡をお願いします。

編集後記 会報委員は6人で、集まった原稿のレイアウトと内容の検討をおこない、理事にも内容のチェックをお願いしています。

印刷から発送までの作業は理事らの応援を得て6～8人で1日でおこないます。

原稿を期限なしで募集しています。年4回の発行です。身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する趣旨の内容であれば問いません。文字数の標準は800文字以下です。